

# 令和5年度 宮城県試験研究機関評価委員会 第1回 工業関係試験研究機関評価部会

## 機関評価に係る評価部会実施結果

### 1 評価部会委員

評価部会委員名	所属・職名等	摘要
澤田 恵介	独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校 校長	部会長
赤羽 優子	株式会社ティ・ディ・シー 代表取締役社長	欠席
蛭名 武雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター 所長	
阿部 賀寿男	株式会社阿部蒲鉾店 代表取締役社長	欠席
佐浦 みどり	有限会社東北工芸製作所 常務取締役	
菅野 直	バイスリープロジェクト株式会社 代表取締役	

### 2 評価対象機関

工業関係試験研究機関：経済商工観光部 産業技術総合センター

### 3 評価項目

#### (1) 項目別評価

- ①研究機関の運営方針・重点分野
- ②研究開発・技術支援体制
- ③研究者の確保・育成
- ④研究施設・設備等，研究環境の整備
- ⑤共同研究等産学官連携による研究内容の充実
- ⑥研究成果（成果普及関係業務を含む）の状況
- ⑦技術支援関係業務等の状況
- ⑧研究マネジメント

#### (2) 総合評価

### 4 評価結果

特に優れている。

### 5 機関評価表

別紙のとおり。

# 機 関 評 価 表

評 価 機 関 名	経 済 商 工 観 光 部 産 業 技 術 総 合 セ ン タ ー
評 価 実 施 日	令 和 5 年 1 1 月 1 0 日
評 価 者 名	宮 城 県 試 験 研 究 評 価 委 員 会 工 業 関 係 試 験 研 究 機 関 評 価 部 会

	評 価 項 目	評 価			
項 目	① 研究機関の 運営方針・重 点分野	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 1人 A 3人 B 0人 C 0人 D 0人
		S	—	A	
別 評 価	S 特に優れて いる A 優れている B 適切である C 見直しが必要 D 全面的に見直 すべきである	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
		—	A	A	
		<p>澤田部会長： 企業訪問による課題の掘り起こしや人材育成の支援に加えて地域ものづくり企業の技術課題を先回りして支援するなど、県内製造業の発展に多大な成果を上げている。</p> <p>赤羽副部会長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 運営方針、重点的な研究分野・技術支援分野は、宮城県の製造産業の分析の基に検討されており、適切である。研究開発、技術支援、人材育成のいずれも県内企業の課題・ニーズの解決に必要であり、効果的で手厚い支援に取り組むものとなっている。所長方針の重点取り組みにある「先回り」をする意識も大切な点と思う。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： ニーズを把握するために相談・訪問を実際に行い、宮城県内の企業の課題に寄り添って三本柱の研究開発、技術支援、人材育成を行っているので、センターを利用する企業が増えていると感じる。</p> <p>菅野部会委員： 研究開発、技術支援、人材育成、産学官連携を横断的かつ柔軟に対応することでこれまでに無い幅広い産業への支援が期待できる。この取り組みに関しては、県内の多くの企業が活用できると思うので広報活動に関してもしっかりと取り組んでいただくことを期待する。</p>			
項 目	② 研究開発・技 術支援等体 制	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 0人 A 2人 B 2人 C 0人 D 0人
		A	—	B	
別 評 価	S 特に優れて いる A 優れている B 適切である C 見直しが必要	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
		—	A	B	
		<p>澤田部会長： 技術職員の適切な配置により様々な技術分野に対応している。特定財源減少の中で外部資金獲得に実績を積んでいる。</p>			

D 全面的に見直すべきである	<p>赤羽副部長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 組織部署は必要な分野にまんべんなく人員が配置されており適切である。一方で半分以上が50歳台以上であることに対しては、その対策が求められる。県単研究費と特定財源の金額が減少傾向であるため、競争的資金額増加に向けた具体的な方策が求められる。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： 職員の年齢構成比のなかで若手職員比率が少なくなっているため、若手職員が活躍できる職場を意識して作らないといけないのでは、と感じたが、面談を年4回行っていること、退職率が低いことを伺ったので、風通しの良い職場作りに努めていると理解できた。</p> <p>菅野部会委員： 組織体制に関しては非常に適切であると感じる一方で、人員に関しては不足する懸念があるのでは無いかと思う。特に30代以下の職員が16%となっておりインターンシップの活用などを通して人材の確保に努めて欲しい。また、退職した職員や企業OBなどの優れた経験を持ったシニア人材の活用も考えていただければ良いのではないだろうか。</p>
----------------	---

③ 研究者の確保・育成	澤田部会長	赤羽副部長	蛭名部会委員	<評価集計> S 1人 A 1人 B 1人 C 1人 D 0人
	A	—	B	
S 特に優れている	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
	—	S	C	

A 優れている B 適切である C 見直しが必要 D 全面的に見直すべきである	<p>澤田部会長： 技術トレンドを先読みして若手職員の計画的確保が実現されている。職員の研究力強化支援とともに職員表彰を進められており、職員の職務に対する納得感醸成を図っている。</p> <p>赤羽副部長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 中長期計画を立てて新規採用職員を計画的に採用している点は評価できる。新規採用確保の取り組みにも効果が出てくるまで、それなりの時間が必要と思われるため、地道な取り組みを期待する。外部表彰にも積極的なチャレンジをしてほしい。職員のインセンティブ付与についても検討いただきたい。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： 新規人材の確保に直接大学や高専などに出向いて説明を行うなど熱意を感じた。また、表彰制度も内部のみにとどまらず、外部からも積極的に取り入れるなど、時流にあった評価や育成に努めていることも理解できた。</p>
--	--

菅野部会委員：  
 30代以下の人材の確保に課題があるので是非改善して頂きたい。  
 研究者の業績評価及び処遇については適切な面談等により非常に配慮されていると感じた。今後はAIや半導体に関する先端の研究者の確保・育成なども必要になるので頑張ってください。

④研究施設・設備等, 研究環境の整備	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 1人 A 2人 B 1人 C 0人 D 0人
	B	—	A	
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
	—	A	S	
S 特に優れている A 優れている B 適切である C 見直しが必要 D 全面的に見直すべきである	<p>澤田部会長：          計画的な修繕による設備・施設の長寿命化は必須であり、整備計画に基づいて適切に実施されている。さらなる予算獲得が望まれる。</p> <p>赤羽副部会長：          (欠席)</p> <p>蛭名部会委員：          現在地に移転後、24年程度経過した研究施設の老朽化に伴う対策・修繕などは適切に実施されている。機器類の整備については、機器選定にポイント制を導入していることは優れた取り組みである。これによって企業ニーズの高い使用頻度の高い機器の整備が行われている。</p> <p>阿部部会委員：          (欠席)</p> <p>佐浦部会委員：          機器の選定理由にポイント制を設け、わかりやすい仕組みになっている。予算確保の面でもう少し、取り入れることができるものはないか確認を検討してほしい。</p> <p>菅野部会委員：          5か年計画に基づいて施設・設備の拡充を図り予算措置についても適切になされている。</p>			
⑤共同研究等 産学官連携 による研究 内容の充実	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 2人 A 2人 B 0人 C 0人 D 0人
	A	—	A	
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
	—	S	S	

<p>S 特に優れている</p> <p>A 優れている</p> <p>B 適切である</p> <p>C 見直しが必要</p> <p>D 全面的に見直すべきである</p>	<p>澤田部会長： 企業や外部機関が参加する実施体制をフレキシブルに組み立てることによって、産学連携を効果的かつ強力に推進している。</p> <p>赤羽副部会長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 産学官連携による研究内容は充実している。宮城県産業技術センターだけではなく、地元企業はもとより、大学などとの分担・委託・助言・支援・シーズ提供・技術指導などいろいろな形で連携が取れており、ケース毎の最適な連携体制が構築されている。多くの産学連携組織にも中心的な役割を担っている点が評価できる。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： 共同研究で大学・企業との連携を行うことにとどまらず、積極的に研究会やコンソーシアムに参加するなどして外部機関との交流も積極的に行っている。</p> <p>菅野部会委員： 少ないリソースを工夫し地域企業との共同研究に参画して成果を上げている。</p>			
<p>⑥研究成果(成果普及関係業務を含む)の状況</p>	<p>澤田部会長</p>	<p>赤羽副部会長</p>	<p>蛭名部会委員</p>	<p>&lt;評価集計&gt;</p> <p>S 3人</p> <p>A 1人</p> <p>B 0人</p> <p>C 0人</p> <p>D 0人</p>
<p>a. 産業・社会的ニーズに貢献しうる成果が十分にあげられているか。</p>	<p>S</p>	<p>—</p>	<p>A</p>	
<p></p>	<p>阿部部会委員</p>	<p>佐浦部会委員</p>	<p>菅野部会委員</p>	
<p></p>	<p>—</p>	<p>S</p>	<p>S</p>	
<p>S 特に優れている</p> <p>A 優れている</p> <p>B 適切である</p> <p>C 見直しが必要</p> <p>D 全面的に見直すべきである</p>	<p>澤田部会長： 技術支援によって様々な製品が新たに商品化されており、コロナ禍で一時落ち込んだ売上金額も順調に回復してきている。</p> <p>赤羽副部会長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 商品化しているものは多岐に渡っており、産技センター殿の幅広い技術分野でのサポートがされていることがよく分かる。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： 企業の相談を機に支援と提案を行っているので実用化事例も件数、金額ともに伸びている。</p> <p>菅野部会委員： 地域企業への技術支援による製品化について実績が上がっており高く評価できる。</p>			

b. 研究成果の普及体制が適切に構築されているか。また、普及実績は十分か。	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 0人 A 2人 B 1人 C 1人 D 0人
	A	—	A	
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
	—	C	B	
S 特に優れている	澤田部会長： 対面や媒体を活用した広報活動が活発に行われている。ホームページの閲覧数も大幅に伸びており、支援内容や支援状況に関する広報活動が実績を上げている。			
A 優れている	赤羽副部会長： (欠席)			
B 適切である	蛭名部会委員： 売り上げまでフォローアップ調査ができていることを評価する。新規実用化件数がこの十年間のトレンドで少なくなる傾向なので、引き続きの奮闘に期待したい。			
C 見直しが必要	阿部部会委員： (欠席)			
D 全面的に見直すべきである	佐浦部会委員： センター支援で生まれた新商品のお披露目の場がもっとあってもいいと思う。POPUPショップや市内・県内の小売店などと連携すると、支援と販路拡大につながるのでセンターの職員の認知度もアップすると感じる。			
	菅野部会委員： 対面、媒体活用による広報について効果がでており適切である。優れた研究成果もあるのだからもっと予算を使い広報しても良いのではないかと考える。			
⑦ 技術支援関係業務等の状況	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計> S 1人 A 3人 B 0人 C 0人 D 0人
a. 当該技術支援業務が地域産業の高度化を直接的に助長する業務として組織全体の業務の中に明確に位置付けられているか。	A	—	S	
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
	—	A	A	
	S 極めて適切である	澤田部会長： コロナ禍においても組織的対応でものづくり企業に対する支援事業を継続した。放射光施設運用開始を見込んで県内企業の利用促進に向けた組織的な支援体制を構築している。		
A 適切である	赤羽副部会長： (欠席)			
B 妥当である	蛭名部会委員： 技術支援業務は多岐に渡っており、地域企業の支援をするための十分なメニューが揃っている。技術相談と試験分析、および施設・機器開放は極めて多くの案件をこなしており、特筆すべきである。また、技術支援利用金額も高い水準を維持しており、高く評価できる。			
C 改善すべき点がある	阿部部会委員： (欠席)			
D 全面的に見直すべきである	佐浦部会委員： 7項目の種類分けが明確に記されている。			

菅野部会委員：  
技術相談を含めたセンターの利用状況は5000件を超えており地域企業のニーズにマッチしている。一方で、センターの利用実績が無い企業のニーズなどについても気を配ってさらに活性化を図ることが望まれる。みやぎ工業会の会員へのアンケートなどを活用してはどうか。

b. 当該技術支援業務が機関における明確な方針の下で地域産業の高度化に十分貢献し得るものとなっているか。

- S 極めて適切である
- A 適切である
- B 妥当である
- C 改善すべき点がある
- D 全面的に見直すべきである

澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	＜評価集計＞ S 3人 A 1人 B 0人 C 0人 D 0人
S	—	A	
阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
—	S	S	

澤田部会長：  
EMC総合試験棟や放射光橋渡し機器の利用開始は地域産業の高度化に貢献しており、コロナ禍で一時的な落ち込みを示した技術支援実施金額が回復している。

赤羽副部会長：  
(欠席)

蛭名部会委員：  
人材育成の取り組み、放射光施設利用促進、DX支援、コロナ禍における対応はいずれも適切な取り組みであり、地域産業の高度化に十分貢献している。

阿部部会委員：  
(欠席)

佐浦部会委員：  
R4年度の実績の自動車関連の現物解説や部品の機能構造解説は、新規参入や取引拡大にむけていて、企業が求める支援だと感じる。また、オンラインでの外観検査講座や商品企画デザイン研修など、地元の中小企業が参加しやすい体制で継続していることも評価できる

菅野部会委員：  
放射光施設の利活用については地域企業の高度化に非常に貢献できるものとする。センターの放射光施設利用推進チームに期待したい。

⑧ 研究マネジメント

- S 特に優れている
- A 優れている
- B 適切である
- C 見直しが必要
- D 全面的に見直すべきである

澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	＜評価集計＞ S 2人 A 2人 B 0人 C 0人 D 0人
A	—	A	
阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	
—	S	S	

澤田部会長：  
組織的な評価サイクルがきちんと実施されている。また、企業の課題解決と同時に技術職員の技術力とやる気の向上が図られている。

赤羽副部会長：  
(欠席)

蛭名部会委員：  
研究マネジメントは、運営会議、事業推進ミーティング、個別面談などを通して職員

に広くコミュニケーションされた上で行われている。現場からのフィードバックもできる体制になっている。顧客満足度調査もよい試みである。一方で職員各位が非常に多くの業務を抱えており、過度な負担とならないか心配な点もある。執行部の皆様には改めて、目配りをお願いしたい。

阿部部会委員：  
(欠席)

佐浦部会委員：  
お客様からの感謝・仕事の達成感を大事にしているということが、連携しやすい、相談しやすい組織になっていると感じる。企業と共同で研究や開発する際もその意識がないと実績が出にくいので、引き続き、寄り添った技術支援を目指してほしい。  
一方で相談しやすい人や信頼のある人ほど依頼が増えてくるので、長時間労働やかたよった仕事の配分にならないような仕組み作りも必要だと思う。

菅野部会委員：  
「仕事を通じた個人の成長」を掲げ適切な面談などを通して職員の育成に努めている。急速に進化するAI産業に対応できる人材育成など高度化する技術に対応できるセンターとして地域企業への貢献を続けて欲しいと願う。

総合評価	評価				
	澤田部会長	赤羽副部会長	蛭名部会委員	<評価集計>	<平均評価>
S 特に優れている A 優れている B 適切である C 見直しが必要 D 全面的に見直す べきである	S	—	A	S 3人 A 1人	S
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員	B 0人 C 0人 D 0人	
	—	S	S		
	<p>澤田部会長： 所長の明確な方針のもとに、企業の多様な要望に応えながら同時に技術職員が成長する組織づくりに成功している。これによって県内ものづくり企業の様々な課題の解決に貢献し、宮城県の富県戦略の具現化に重要な役割を果たしている。</p> <p>赤羽副部会長： (欠席)</p> <p>蛭名部会委員： 公設試験研究機関として、明確な目標を設定し、適切な運営方針・重点分野を設定し、適切な研究開発、支援体制のもと、充実した研究環境を維持しつつ、高いレベルの研究者を確保し、多岐に渡る共同研究等産学連携メニューを駆使して、質量ともすぐれた研究成果を生み出している。</p> <p>阿部部会委員： (欠席)</p> <p>佐浦部会委員： コロナ禍でもオンラインでの対応に切り変える等、企業のニーズにあわせた支援メニューなど都度見直しながら支援を行っていることが確認できた。 職員の高齢化や企業の人材獲得の苦戦等の課題も共通しているので、今後、県内の高齢者の人材育成や活用方法なども検討してほしい。</p>				



菅野部会委員：

非常に多くの利用実績があり、センターの技術協力による製品も生み出されており高く評価できる。「先回り・寄り添う・繰り返し」を掲げているので利用実績が無い企業へ職員を派遣するなど新たなニーズの掘り起こしなどを通じて地域企業の底上げを行っていただくことが出来れば良いのではないかと。

澤田部会長：

技術トレンドを先読みして若手技術職員の計画的確保を今後も実現していただきたい。シニアの比率増が避けられない中で、研究力に富んだ若手技術職員と企業支援に長けたシニアの技術職員のチーム形成が重要と思われる。技術支援においては、コスト低減と品質向上を実現するコンピュータを活用したデジタルエンジニアリング、最適設計技術の導入を急ぐべきであると感じた。また、対応すべき技術分野の裾野が広がり、多くの技術支援が要請される場合、センターの技術指導では間に合わなくなり、企業への技術移転も進まなくなることが予見される。従来の技術職員による技術支援に加えて、大学や高専の課題解決型インターンシップを活用した新たな技術支援方法の可能性も検討すべき時期ではないかと。

佐浦部会委員：

一度、センターの支援を受けると相談しやすくなること、センターでどんなことができるのかが理解できるようになることを実感しています。センターにとっても、関わった企業の強み弱みが把握できるので、企業の紹介や連携も増えていくことが今後財産になると感じます。関わる企業を増やしていく仕組みづくりもあってはいいのではと感じました。

菅野部会委員：

広報活動については費用をかけても良いのではないかと思います。良い活動が沢山あるのでアピールも大切かと思います。

その他意見等